

## 教育長が代わりました

### 新教育長に

#### 田岡洋一さんが就任

12月13日、新しい教育長に、市議会の同意を得て市長が任命した田岡洋一さんが就任しました。

田岡教育長は、県立高校校長などを歴任するなど、37年余りにわたり教育現場および教育行政に携わってきました。

田岡教育長は、就任に当たって、「確かな学力の育成、中学校区を単位とする小中一貫教育の推進、中学校給食を主な課題として挙げ、直方の教育の発展・充実のため全力を傾注する。」と挨拶しました。



### 能間瀧次教育長が退任

教育長を1期4年務めた能間瀧次さんが、任期満了により12月12日に退任しました。

能間前教育長は、小中一貫教育の推進に取り組み、教育フォーラムの開催や学力向上等の成果をあげました。また、子どもたちの豊かな感性を育成するため、「小学生の野焼き体験」、「中学生のためのフルートとピアノによる「コンサート」等の開催に取り組むなど、直方の教育活動に尽力しました。



## 植木に墜落したB29元搭乗員 戦後70年の節目に再訪

第二次世界大戦末期の昭和20年3月、鞍手郡植木町（現・直方市植木）の河川敷に墜落した米軍B29爆撃機の元搭乗員、フィスク・F・ハンレイさん（95）が12月10日、70年ぶりに墜落現場を訪れました。

ハンレイさんは、中島橋付近の墜落現場に足を運んだあと、近くにある八幡西区のこやのせいで、墜落死した搭乗員や空襲で亡くなった人々を慰霊するとともに、平和を祈念して献花を行いました。その後、墜落した当時の様子を知られたちや、ハンレイさんと関わりがあった人たちとの交流会が行われました。

ハンレイさんは、関門海峡に機雷を投下したB29に搭乗。機雷投下後に地上からの砲撃を受け機体が炎上し、弾薬庫に火が回らないよう手を尽くしたことや、パラシュートで降下中、戦つか降伏するか迷った末に投降したことなどを明かしました。「この地に降りたとき、これまでのことを考えれば何をされるか分からなかったが、植木の人たちは私を守り、そして治療もしてくれた。今でもとても感謝している。この地を再び訪れることができたことは、本当にうれしい。」と、話していました。



## 直方市社会福祉協議会に 福祉巡回車が寄贈されました

一般社団法人生命保険協会北九州協会から、福祉巡回車が直方市社会福祉協議会に寄贈され、12月11日に贈呈式が直方市総合福祉センターで開催されました。

寄贈された車両は、直方市社会福祉協議会で日常生活自立支援事業サービス利用者の自宅等に訪問するときなどに活用されます。



## 舌間信夫さんら5人を表彰 平成27年直方市表彰式



11月20日に平成27年直方市表彰式を市庁舎で行い、市は郷土史家の舌間信夫さんに対し市民栄誉賞、元市議会議員の村田武久さんから4人に対し市政功労賞を贈りました。

舌間さんは、昭和53年1月から昨年3月まで37年もの長きに渡り、市報のおがたの紙面に、市の歴史や文化について延べ443話を執筆しました。この歴史ものがたりを多くの市民が読ませていただき、市の歴史に対する認識を深めた功績に対して市民栄誉賞を贈りました。

また、村田武久さん、松田英雄さん、石田一人さん、安武俊次さんの4人は、それぞれ市議会議員を5期20年間務められ、そのご労苦に対して市政功労賞を贈りました。

舌間さんは授賞に際し、「直方には福智山や遠賀川などの豊かな自然、また、江戸時代からの歴史や文化が残っている。今後も皆さんに長く伝えていただきたい。」と、話していました。

## 1回だけでも…ダメ、ゼツタイ 薬物乱用防止教室

12月6日、直方ライオンズクラブの主催により保護者向けの薬物乱用防止教室が中央公民館で開かれました。

前半は、元検察官の壬生市長が、近年の犯罪件数に占める覚醒剤犯罪の割合・再犯率、また特色などについて話しました。後半は、飯塚少年サポートセンター少年育成指導官の大月祥子さんから、現場で見えてきた子どもたちの特徴や生育過程における問題点等の話があり、講演最後には覚醒剤漬けになって服役中の少女が心情を綴った手記が紹介されました。

インターネットの普及もあって、少年少女が暴力団や麻薬組織絡みの犯罪に巻き込まれやすくなっています。そのような環境から子どもを守り健全に育てていくためには、まずは親が子を認め、話を聞き、愛情を注ぐことが何よりも大切であるということでした。



## 地域で助け合って高齢者を守る 上頓野校区で徘徊模擬訓練



11月29日、上頓野校区で認知症の人が行方不明になったという想定のもと、徘徊模擬訓練（同実行委員会主催）が行われました。

徘徊役が複数の場所を歩きまわり、各場所に声かけ役が5〜6人配置されました。声かけ役で参加した藤瀬奈穂子さん（58）は、どんな様子かをよく見て、驚かせないように声かけすることを心がけ、徘徊役の行き先や、一人で大丈夫かなどを確認しながら話しかけていました。

最終ポイントの直方中村病院では、警察に通報・保護するまで一連の流れを確認しました。上頓野校区長の上川光明さん（71）は「地域の人に協力してもらっていい訓練になりました。徘徊者が出ないようにするのではなく、徘徊者が出たときにお互い助け合えるように協力していきたいです。」と、話していました。